

3. 科研費からの成果展開事例

人文・社会科学の振興に関する研究

人間文化研究機構国立民族学博物館 教授 小長谷有紀

科学研究費補助金(科研費)

マルチメディア民族誌の研究
(重点領域研究1995~1997)

モンゴル高原における遊牧の変遷に関する歴史民族学的研究
(基盤研究(A)1998~2000)

中国における環境政策「生態移民」の実態調査と評価方法の確立
(基盤研究(A)2005~2007)

中国内蒙古自治区、モンゴル国の遊牧民を主な研究対象として、技術・儀礼の両側面に注目して生活世界を多面的に分析・理解する研究により、地域研究に新しい視座を提供

特に、人と動物を含む自然全般との関係が急激に変化した近現代に関する口述史を通じた解明は類例がなく、国際的に高い価値

2009年度大同生命地域研究奨励賞受賞(2009.7)

日本学術振興会
人文・社会科学振興プロジェクト研究事業

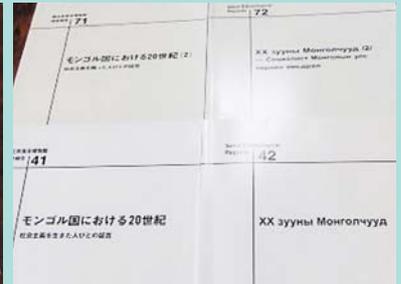
●豊かな人間像の獲得
(2004~2008)

人文・社会科学を中心とした各分野の研究者が協働(collaborate)して、学際的・学融合的に取り組む「課題設定型プロジェクト研究」を推進し、その成果を社会への提言として発信

モンゴル高原の遊牧生活に関する基礎的な情報を収集
その成果に基づき、物質資料・文献資料・聞き取り結果を統合したマルチメディアを作成
展示には10万人の入場者



ロシア人研究者A.シムコフの著作集



社会主義的近代化に関する口述史料集



世界各地の口承文芸に関する研究者が集まり、その成果を比較分析し、現代社会に対して今日的意味を発信



サイエンスカフェ(2007年7月)
国際児童文学館

現代的課題として草原の劣化という環境問題に焦点を絞り、国際会議でその問題点を明示



北京(2005年9月)



ウランバートル
(2003年7月)



公開セミナー(2007年6月23・24日)
千里ライフサイエンスセンター



ピロリ菌の研究

北海道大学病院長 教授 **浅香正博**

科学研究費補助金 (科研費)

Helicobacter pylori感染と胃粘膜病変発生の関連性について-
胃癌との関わりを中心に-
(一般研究 (B) 1995~1997)

Helicobacter pyloriと胃癌発生
(重点領域研究 1997~2000)

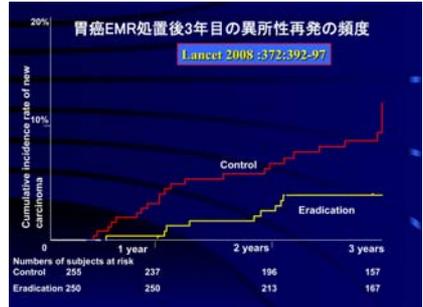
解糖系のキー酵素であるアルドラーゼAの抑制による癌細胞発育抑制の試み
(萌芽研究 2004~2005)

- 日本国内におけるヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)の感染率の詳細を初めて明らかにした。
- 日本人の国民病といわれていた萎縮性胃炎の原因の大半はピロリ菌が原因であることを突き止めた。
- ピロリ菌が胃癌それも早期胃癌と強い関わりがあることを発見。
- 沖縄地方に胃癌が少ないのは、ピロリ菌の感染率が高いからではなく、細胞障害性の弱いピロリ菌の割合が高いことに由来していることを証明。
- ピロリ菌を除菌すると、胃癌の発生が3分の1になるという研究成果をLancet誌に発表。ロイター、BBC、ニューヨークタイムスなどに速報掲載。

これらの研究成果をもとに日本ヘリコバクター学会ガイドラインでピロリ菌感染はすべて除菌をするよう勧告。
「高松宮妃癌研究基金学術賞」を受賞(2009.2)
「朝日がん大賞」を受賞(2009.9)

選択症例の背景因子

	非除菌群	除菌群
症例数	250	255
性別		
男性	191	195
女性	59	60
年齢	69	68
分化型の割合	99%	99%
m癌の割合	96%	96%
萎縮性胃炎(中程度以上)	77%	73%
腸上皮化生(体部)	47%	51%



参考 科研費と他の競争的資金との連携

研究者の自由な発想に基づく
研究を支援

特定の政策目的のため
基礎から応用に至る研究を推進

研究成果を生かし具体的な
製品開発に結びつける研究

